

普及活動情勢報告（平成28年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

農家のレベルアップへ!!～シシトウ・ピーマンの合同勉強会の開催～



勉強会風景

7月6日、JA土佐くろしお出荷センター2階会議室で促成シシトウ・ピーマンの生産者16名と研修生2名が参加し、環境制御技術、土壌病害虫対策、IPM技術の勉強会を開催しました。

農業改良普及課は、環境制御技術の基礎である光合成、蒸散、転流の仕組み、ウイルス病対策について説明しました。生産者からは、光合成と温度の関係について質問があり、関心の高さがうかがわれました。また、ウイルス病による被害も拡大しているため、残渣の腐敗促進による土壌ウイルス濃度の低下にも関心が高く、今年から対策を実施してみるといった声も聞かれました。

農業改良普及課では、今後もシシトウ・ピーマンの安定生産に向けて、環境制御技術と基礎的な栽培技術を併せて普及に取り組み、農家のレベルアップに繋がります。

環境制御推進を目指して!!～須崎地区環境制御技術普及推進会議（第1回）の開催～



環境制御技術普及推進会議風景

7月14日、須崎総合庁舎5階会議室でミョウガ、ニラ、キュウリの環境制御技術実践生産者4名とJAや県関係機関職員29名が参加し、須崎地区で環境制御技術を普及していくための会議を開催しました。

これまで関係機関で取り組んできた実証試験成果を踏まえた技術的な課題と、今年度の推進計画や部会単位での細やかな情報提供を柱とした取組について生産者を中心に意見交換を行い、情報の共有ができました。

須崎振興センターでは、今後も管内生産者の経営安定に向けて環境制御技術の普及に取り組み、農家の所得向上に繋がります。

安定した収量を～JA土佐くろしおインゲン部会勉強会の開催～



天敵生物について説明中

7月13日、中土佐町でJA土佐くろしおインゲン部会勉強会を開催し、11名の農業者が参加しました。

農業改良普及課は、土壌消毒方法と、平成28園芸年度の天敵生物を利用した防除試験を説明しました。講師に招いた病害虫防除所からは、天敵生物のスワルスキーカブリダニを中心とした害虫防除対策について説明しました。

参加者からは、土壌消毒や天敵に関する質問や意見が出され、増収や省力化への意欲を高める事が出来ました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携してインゲンの増収・品質向上に向けて支援します。

品質向上を目指して!～JA津野山ミョウガ部会が目慣らし会を開催～



生産者による目慣らしの様様

7月4日、JA津野山ミョウガ部会がJA津野山営農センター輝で、目慣らし会を開催し、生産者17人が参加しました。

農業改良普及課は水やけ症の対策等について説明しました。

参加者からは、「水やけ症の原因は明らかになったのか」、「梅雨の合間に、高温となっているが、今年は水やけ症の発生はどうか」等の質問が出され、水やけ症に対する関心は高いものでした。

農業改良普及課は今後もJA等関係機関と連携して、津野山地域におけるミョウガの安定生産や品質向上に向けて支援します。

生産者の繋がりを大切に！～ J A津野山ナス部会が目慣らし会を開催～



生産者による目慣らしの様様

7月4日、J A津野山ナス部会がJ A津野山営農センター輝で、米ナスと小ナスに分かれて、目慣らし会を開催し、生産者13人が参加しました。

J Aは米ナス生産者に今後の栽培管理等を、農業改良普及課は小ナス生産者に今後の栽培管理、半身萎凋病対策等について説明しました。

参加者からは、「静電気を利用した土壌病害対策はどうであったのか」等の質問が出されました。

農業改良普及課は今後もJ A等関係機関と連携して、津野山地域における小ナスや米ナスの安定生産や品質向上に向けて支援します。

生産者の意識向上を目指して～ J A土佐くろしおミョウガ部会が2回目の目慣らし会を開催～



目慣らし会の開催の様子

ミョウガの夏場の出荷に向け、J A土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガ部会の「出荷目慣らし会」が6月29日から7月4日にかけて、10回開催されました。203戸（生産者214戸）の農家が参加し、「環境・安全点検シート」に沿って、日々の栽培から荷造り出荷までの作業について自己点検を実施しました。農業改良普及課からは、水やけ症などについて情報提供や、ハウス内環境把握の重要性と機器に対する補助事業の紹介や事業に対するアンケート調査を行いました。

農業改良普及課は今後も、これからの高温期のお荷に向け腐敗対策とミョウガへの環境測定機器の導入を推進していきます。

平成28年度の栽培を振り返って～ J A津野山加工用ワサビ出荷反省会を開催～



出荷反省会で情報共有

7月13日、J A津野山加工用ワサビ出荷反省会がJ A津野山営農センター輝で開催され、生産者7名が参加しました。J Aは平成28年度取扱実績及び平成29年度栽培計画を、農業改良普及課は平成27年度に行った実証ほの結果報告を行いました。

生産者からは、苗質を均一にしてほ場内の生育のばらつきを抑えることが重要との意見が出ました。

生産者・関係機関との間で情報交換を行った結果、土壌消毒や適正施肥等、栽培基本技術に対する意識が全員に共有されました。

農業改良普及課は、今後もJ A等関係機関と連携して加工用ワサビの収量・品質の向上に向けた取組みを支援していきます。